

現行計画の総括

1 水田の再基盤整備

水田については、一定の基盤整備が進んでいましたが、生産性の向上に向けて、県営土地改良事業を導入し、大区画化と汎用化を進めてきました。その結果、再基盤整備を行った水田の面積は、平成 17 年度の約 260ha から、約 307ha へと約 47ha 増加しました。

2 認定農業者の確保

効率的で安定した農業経営に取り組む担い手の育成に向けて、認定農業者を確保すべく、農業者に対し、認定農業者になることのメリットや制度の説明を行ってきました。この結果、認定農業者数は、平成 17 年度の 30 件から、90 件に増加しました。

3 家族経営協定

担い手の家族が、意欲をもって農業経営に参加できる環境整備に向けて、家族経営協定の締結を促進してきました。この結果、家族経営協定の締結数は、平成 17 年の 5 件から、31 件に増加しました。

4 地場農産物を使って加工品を生産した生産者数

食に関する消費者ニーズに対応するとともに、農業者の所得の向上に向けて、市内の農産物を原料とした加工品を確保すべく、取り組んできました。この結果、地場農産物を使って加工品を生産した生産者は、平成 21 年の 72 人から、平成 26 年は 75 人に増加しました。

5 エコファーマー戸数

持続性の高い農業生産を拡大するとともに、持続性の高い農業により生産された農産物の需要を拡大するため、エコファーマーの認定を促進してきました。この結果、エコファーマーの戸数は、平成 17 年の 22 件から、115 件に増加しました。

6 体験農園利用者数

市民が農業に触れ合う機会を整備し、農業に対する理解を促進する取組みの一環として、農業交流センターの周辺の農地において体験農園を整備するとともにさまざまな農業体験ができる機会を設けました。この結果、体験農園の利用者数は、増加の傾向にあります。